



門本加  
566  
卷

倭字古今通例全書卷四

自太至武

た

太変た又又多変多変  
又堂変考

乾坤

たろろろ

織女

袖中抄ニツメハツト同音ト云云古語拾遺ニ姫字ニ  
作ろト訓ス伊物ニたろろろイ宿カントアリ又云ニ

たうせん

いでゆ

湯泉

温泉也共ニ  
順倭ニ

たうご

唐土

作唐俗ニ  
支那ヲ云

たうげ

峠

又到下共是ヲ  
訓母トスノ

たいごうせん 太政官

宮城内  
郁芳門

大路北美福大路西宝字元年改乾政官  
鳥ノ一ト云云拾芥抄ニ見タリ

たふぶ

古書ナク不用

塔婆

只塔ト斗用此翻方墳又宝婆尼木浮屠尼滅惡尼  
云或有多宝佛塔石ノ沙ノ泥ノ等又たらちノ塔頭

たう

堂

居室ノ訓子ヤ今多ハ佛居ノ名トス  
或金ノ或食ノ又講ノ等

列四

たうちぢぢ

道場

下字作場俗  
浮屠所ヲ云

たちまれば

但馬國

古書百二八  
たちま共

アリ難用古六田道間トモ日本紀曰天日槍加孫田道間守加常世  
ノ国ヨリ橋ヲ袖ニツミ来レテ在壺仁記又旧事紀但遲麻トアリ  
又古今ニ躬恒ガ詞書ニたちまのゆれゆまうりげふトアリ  
如此ノ證アレバちノ假名ウタガヒナシ

たてぬひ

楯縫

出雲  
郡名

たかし

答志

志ナ郡ノ名前被  
誤テノ字ニ入

とぢひ

丹比

河内郡名又同訓ニ  
多治比ハ人ノ氏也

たきばら

瀧河内

大和吉野ニアリ万葉ニ吉野川ノ名ニタキバラト  
ヨメリ又定家卿ニ吉野ノ名ニタキバラト云

林代をきくぬむそ  
ミのミ

たあも

多武峯

元亨秋  
書ニアリ

又五基山氏談山氏但是六鎌足廟上ノ山ヲ云都テ山号ヲ談山ト云  
寺号ヲ妙樂寺院号ヲ護國院ト云釈定惠草創也縁起曰

たくれぬ

風流島

肥後ノ名所又多波礼嶋氏後撰十九名に於て  
わしそ思ふたれゆをたぬきぬのよきつら

とらとをのえ高砂小江

幡洲ニアリ尾上ノ時ハたのへ又高砂ト云ハ山  
ノ摠名ニ尾上ト云モ名所ニラス山ノ中腹ヲ云

たみののぬい

田中井戸

紀伊名所  
又呂歌名

たぬぬ

玉井

江州名所  
又同字ニテ

たみのの山城国  
相樂ニアリ

附たぬえー江

攝洲淺水ト云所ナリ  
歌ニ多ク昔ヲヨメリ

たぬれをよまー緒山

江州ノ名  
所拾遺ニ

たろと

高雄

續日本紀ニ  
尾氏在山

城并愛宕山紅葉ノ名所有寺曰神護寺四十九代光仁帝  
宝龜五年建始号神願寺天長二改号神護国祚寺後国

祚ニ字ヲ略スト云文覚曰昔弘法於ニ八幡  
与高尾山唱和密乘云不詳

たるぬ

垂井

美濃名所名水アリ日本紀ニモ見タリ  
又詞花ニひりみりしり升れあかき

つげらほれ

高千穂峯

日向國之天瓊々杵尊  
始臨降之地也

たいま

當麻

大和葛下郡神名帳ニたいまつアリ上字声タウイト書  
えト書訓ニアラス声ノ変之古書ニたまつイブカシ源氏

たうきん

當今

今上皇ノ御事

だぢやうてんきう太上天皇

文集ニ云唐

玄宗ヲ為太上皇日本ニテハ持統天皇  
脱履後始テ

たちか

手力雄

又多力雄氏又天ノ命氏高皇彦彦靈尊ノ四子ト云  
是天照太神ノ之臣戸隱明神是之

たげこわづら

武甕槌

又建御雷古事紀ニ系圖甕速日  
熯速日ノ常陸鹿嶋明神是之

たげのそふ

竹園

親王ヲ指テ云  
孝王故事

たいごんたいごん太政大臣

師範ニ人儀

四海中華ニ吳師曰相国曰大尉  
日本ニテハ天智十年正月大友皇子ヨリ始ル

たいか

太閤

大臣ヲ子ニモタル人ノ称  
落髮セルヲ禪閣ト云

たうふう

道風

小野氏官木工頭延喜五年生  
村上天皇康保三年卒能書

たうきやう

道鏡

孝謙帝寵臣  
号ヲ削法皇

たいこう

太公望

嘗テ釣渭濱後興

而佐文王武王  
聖人也

たうこう

道隆

蜀國之僧  
号蘭溪

後嵯峨帝寛元四年來朝平時頼叙依後深草建長元年  
建寺於相州一号建長寺以テ一ノ為開山後宇多弘安元年

七月廿四日寂<sup>ス</sup>諡大覺禪師日本禪師号之始也

たとめ

婦人

万葉及古事紀云手弱女

詩經ニ婦德二字

たりちね

生親男

附たりちの垂乳根

又專女字ヲヨム

之又父母ヲかぞへりト云生親男モ垂乳根ヘモ直拘ニ相通ス又父ト云ハト、母ト云ハカト直拘ニ通ス

たうじ

刀自

ミトト唱フ下部御膳方者

たうえんめい

陶淵明

陶潜名、元亮字ハ

淵明之世号靖節先生、晋時之隱者也

愛菊爲老莊之学、宋文帝徵不至

たてくきのたさ夕千八千庄帯刀長

春宮坊ニ斗アリ

たふ

大夫

又太輔告板、誤テたゆトス

たうめ

部女

源氏あづまや伊賀一、紹巴云此義不分明平野末社ニダウメノ宮アリ白狐ト書テ同訓ト又各婦ト書テ

モ同訓ノ由土左日記ニ淡路此たうめこのふ人のよめりちトアリ然ハ爰ハ白狐ニアラス人倫トキヨ又たう専字煩悽注曰呼老女爲太宇女

たれさ

田長

詩經ニ田畷ニ字ヲヨム

たりれめ

戲女

作戲俗又嬉婦氏又風流

女氏万葉ニまたれた風流男是亦万葉ニ見タリ

たうじ

道士

仙術ヲ学者之童子時ニシ

たいぢやうふ

大丈夫

長一丈ホド有人ヲ云以テ

周尺ヲ考レハ和尺六寸ニアタル

たうそくじん 盜賊人

たうまやう

道命法師

東宮傳云道綱男阿闍梨天王寺別當後歌仙ノ内ナリ

たうじやう

鷹飼

東鑑十八文字訓共ニ見タリ伊物ニおんたれたかひ又一師是ヲタカシヤウト訓ニ世ニ用未考出所

たうじん

只人

職原桃華老人追加ニ出タリ又凡人氏又直也人は盛衰記ニ又けをたうじんにけわしけれ源氏桐壺

たうめ

靈

作翳古文作靈俗作灵猶俗也又同訓ニ魂又魄用所ニヨルベシ

附たふれを 魂緒

命ノ一ヲ云 又一窮ニ命ノ終ヲ云寂蓮  
俗ニ玉緒 **たぬきろり** 一極  
カ身ニカル時定家卿たぬき

ろりをれとろりもトヨネリ又八雲抄ニ  
物ヲホメタルニモ云是ハ玉極ナリ  
**たぬきろり** 消  
又一切

源氏ニたぬきとせ  
ゆふトアリ  
**ふれもの**  
人及牛馬ノ道  
路ニ死タルヲ云

俗ニ倒者中臣枝百ケ  
モノタラレシモノセルツミ  
**だいぢやれふ** **大腸腑**  
俗也 作腸

旧事紀ニ遊仙ニ手子トアリ凡スエト瓜ト拘音ニ  
相通ス附あかむと急足端 足末ナリ  
**大腸腑** 俗也

脱肛 病也  
**だむま** **駘**  
牝馬

おほとろト訓ス莊子逍遙遊  
篇ニ曰觀化爲鵬  
**大鵬** 田鶴 又芦

庭鳥ノ大ナルヲ云本州ニ  
附らるが矮雞是ハ小ヲ云  
**弟鷹** 對兄ト  
ノ各ト

庭鳥ノ大ナルヲ云本州ニ  
附らるが矮雞是ハ小ヲ云  
**鶉雞** 本州ニ

又赤目氏日本紀ニ  
訓心少口傳アリ  
**海鏡** 又蠟蠅ノニ字  
**たい** 鯛  
本州ニ不見日本  
紀及順倭ニ出タ

韓子外傳ニ齊莊公曰出獵有オシ一テ抗臂而當  
其車公曰小虫之勇志亦不可侮回車而退下  
**附くらだい** 老魚  
多識篇ニ

畧訓ハいぶぢり  
俗ニ云カキキリ  
**螭娘** 玉緒一也

菘實ノ  
中ニ  
**桃仁** 作柳俗又

又筭源氏横笛ニウラウラと云と云  
にギアリ附たけのこがと爲  
**笥** 玉緒一也

海藻ノ  
本州ニ  
**反魂香** 倭訓おほぢり  
又マニセリ也

たぬきろり  
**當歸** 倭訓おほぢり  
又マニセリ也

たぬきろり  
**當歸** 倭訓おほぢり  
又マニセリ也

たぬきろり  
**當歸** 倭訓おほぢり  
又マニセリ也

たぬきろり  
**當歸** 倭訓おほぢり  
又マニセリ也

たうがし

番椒

藝花譜ニ

たうきび

蜀黍

本州ニ

くろこう

何首烏

本州ニ俗ニ云ぜんぶ  
又音ヲ呼テカシウ也

たまぐさ

玉苳

メハジキト云  
草ノ別名

服器 たまごひ

手巾

又一拭氏旧書皆如此ノ訓之中比ヨリてのび  
ト云今又てぬぐひ氏云五音相通テ一ナリ

だうめく

道服

地下今  
羽織ト云

たらせと

太刀緒

夕千ハ  
訓ニアラ

くろあん

網手繩

万葉ニアリ日本紀及古事紀ニ栲繩ノ二字ニ  
アミヲ引大綱ノ新古ニウチムト云テくる一キ也ハ  
人ツレと云のふれ浦の  
あし乃たつと云

駄餉

旅中食ヲ  
云東鑑ニ

所々出タリ又作  
一向下学集ニ

たふさぎ

襍

暉衣ノ煩倭  
ニアアノもの

だうふえ

燈補繪

上字字書註ニ日猪孟  
切開張畫繪ニ委ヘニ

たうし

唐紙

順倭ニ紙又帛トモ後漢  
和帝ノ時蔡倫所造也

だみゑ

丹青繪

又濃  
同訓

たうがと

疊紙

と海づさ

玉章

だいせうめうぜん大乗妙典

焦栗  
畧作

兼非妙  
又作妙

とつひ

盥

声管又  
手洗トモ

たんぢやく たんぢやく

短尺

俗ニ一冊尺幅一寸八分長一尺一寸五分但平人用之御製ヲ平人書時ハ幅二寸長一尺八分是ハ三光院殿ノ説ナリ

たぐろ

俵

和俗俵字ヲ用  
一無本拠

たぐろ たぐろ 道幸棚

茶室ニイマス

たぐろん

湯盞

附 たぐろん 瓶

たいまい

毒瑠

上字作玳同  
又晴帽トモ

たいまい

炬火

倭名ニハたてありト訓ス又松明ト書テモ  
たいまいト訓ス又たいまい尺續松之又ツニ出

雑事 たより

手折 キルト斗ハ たり

たぐろん

携

たむむ

たむむ

橈

作橈俗タウセウニ音アリ字書注日本曲之又カグ尺訓ス  
舟ノ具又矢ノ腰ヲたむむハ矯字又糸ヲたむむハ統字  
又扱したむむねヒト云モ  
此字ヲ用ルナリ

たむれ

たむれ

倒

又顛倒ノニ字  
又僵字

たちぬ

起居

トモ

たちやまふ

徘徊

又たぐろひ又たぐろむ尺訓ス又イテ  
又彷徨皆訓一ナリ

たちとほる

起

又踟躕トモ  
又盤桓トモ

たぐろ

踟躕

又猶豫  
トモ

たぐろ

たぐろ

慳

又持尺  
又貯尺

たぐろ

尊

又貴トモ  
尺たぐろトモ

たぐろ

たぐろ

給

又賜

たぐろ

たぐろ

類

作類俗み米  
又比

たぐろト云時ミラヒト書ハアミ、口傳ニ  
万葉ニたぐろカクンフウノ上下畧



だいごやう会 大嘗會

中作嘗俗天子御即位之年以其新米ヲ献伊勢太神宮十二月上卯日行ハ大礼ナリ又本ニ

だうりせらゑ 踏歌節會

上二字ハれハト訓ス正月十四男十六日女於建礼門有舞蹈天平二年正月始

たぬらぶ先んう 鎮靈祭

世ニ作鎮魂祭皆俗也十一月中寅之旧事本紀ニ見タリ附ハト訓スハト訓ス

一月晦日ナリ

尹大弼小弼忠疏ホアリ

唐名羽林大將軍常ニ云幕府又云幕下又云大樹摠以將軍祿ナリ

だんじやう 彈正

唐名御史臺又霜臺

だいごやう 大將

武官左右アリ相當タ三位

たぐかひ 戰

又闘作戰俗

たんとこ 謔

又吐言ハ又誑

たぐえ 湛

又水ハ古書ニハ難用

えんごやう 誕生

たぐかれ 戲

又中畧ハたぐれハ古今ニ秋ハれハ此ハ色ハにたぐれハとハとハ又嬉字ハたぐれハト訓ス徒然草ニひハとハたぐれハとハとハ

らぐト云時用タリ

たぐち 湯治

たいさう 大壯

俗ニ物ノ張大ナルヲたいさうハとハ此字ナルベシ又ノ一ハ易ノ卦ノ名ニ

たづ子 尋

作尋俗又たづりゆハト云時ハ行トカク附たづりハとハれ文字原夫トカク

とごやう 嬋娟

又同訓ニ靈液

とらうらい 到來

たぐえ 絶

又堪又勝えハノ差別ナラハ有ハ此ハをハとハとハト云時ハえハとハとハたぐえハハハ泪ハありけりト云時ハ之ハ猶口傳ニ

たげるとあり 酣

又闌又醺

だうりやう 納涼

スガム

たくし 貯

又番又儲貯ハガハ訓ス日本紀ニ

たごやう 譬

又喻又縦又假令

たへあり

妙 或作妙附ちさく人の手く敷妙枕  
又ちさくく白一ヶ様類少キ習アリ

たがふ

違 作違作透  
皆俗ナリ

とび

互 作互俗又  
迭詩經ニ

たぐ

耕 又耨

たゆふ

汰 声タイ字書ニ洗之漱之又万葉ニたゆ文字猶豫トカケリ  
源氏ニたゆひ一是モ抄ニ猶豫字同書ニたゆりてりて此  
わこのたゆとく又六帖ニたゆれ白雲たゆひけり又古今抄ニ浮  
漂ニ二字同戀ノニそ我とんまらうそちぬれゆこのたゆとゆふはそ

たぶふ

漂泊 日本紀ニ漂蕩ノ二字ヲ訓ス又洋々ト書テ  
文選ニヨウクトタ、ヨフトヨメリ

たいやう

對揚 作對同作對俗之又兼用ノ  
時ハたいよウノカナシ

たいぢ

退治 又對治  
アリ

たぐひ

若以 又原以  
又原惟

たいごう

急狀

さうじ

答話 上字声  
タフ

さうねきやう 當意即妙

たいせき

大聲音

たうねん

唐音 又吳音アリ  
漢音アリ

たの

樂 無假名使世ニ  
たのヒト書

たいまろ

ニヨリ爰ニ出ス面傳ニ  
アラズハ人々難シ

たりの

逮夜 宿忌之假  
名ツカヒナシ

たいまろ

獻 作獻俗之  
士左日記ニ

たむけ

虚 史記ノ  
訓之

さぬもあむ 不積敢

たう

道理 附たうし  
師

たうく

丁々 中莖切ノ時ニ伐木音之杜子美句ニ伐木一山更幽  
トアリ又同聲ニ溥々ハ浪多負又同訓蕩々ハ水流負之

さうこにり

道虚日 六日十二日十八日  
廿四日卅日ト云

たうこう 道統

たづみ

民使

人姓以下 準之

とぬむや 玉祖

とげあ

武生

又たげあ 竹尾之

たういん<sup>エ</sup> 高家

又たげり 市

たぢい

多治比

れ 禮変礼変れ之或書本字作列 雑用又連変也

乾坤 ねうもん 龍門

太平廣記四百六十六委 又大和宇陀郡一ノ滝アリ

れいせいめん 冷泉院

拾芥ニ日元冷然院 枕草子れせいめん

ねう 寮

家屋ノ一ノ陰陽ノ大炊ノ大学ノ又禪位ニ單一 又所化ノ又時宗ニ云一ノニ一ノニ一ノニ一ノ

氣形 ねいせうぢよ 靈照女

龐居士カ女ノ馬祖ニ般依ス日本 平城ノ比ニアタル今昼圖ニ多シ

ねあし 獵師

作獵俗訓カリトド 前板誤テれト云

ねんまろく

練鵲

本州ニ順倭ニ ハ連雀作ル

ねうめ 龍馬

天子ノ御馬ヲ云凡ハ八尺以上ヲ 一ト云之周礼ニ見タリ

れいやう 羶羊

上作羶作矜同字倭訓 カもろ俗ワト云

生植 ねんげう 連翹

倭訓 イタキグサ

ねんりえぞ

連理枝

れいし 荔枝

又つるれい志文字苦瓜又別ニ靈芝アリ仁宗皇帝勸学 文州有靈芝古文正宗註ニ靈芝瑞草王者慈仁ト生ス

服器 ねうら 綾羅

綾羅

ねうし

料紙

ねうせんこう 龍涎香

龍涎香

ねうがきろく

楞伽經

れんぎょく 簀債 商人ノカタニカクル物 けしき鏡 裏形ニヒシラ

スルヲ云因之鑑餅 ニモ羨ヲ置ト云 龍頭鷓首 船ニ

ト鷓トヲ作ル之竜ハヨク得水ヲ鷓ハ風ニ向テトブ故ニ祝テ以テ名之

**雜事** れむぎよ 連署 一狀ト書員アレト云 料理

れうぢ 療治 又一養 けしき 料簡 又ア一トモ

れうじ 聊爾 下字作余同

曾變曾變者變そ變る 又楚變也

**乾坤** そほろあめ 微降雨 又添雨又壯雨万葉ニ微雨ト書テそろト訓ス伊物ニあめそろトアリ新ニあめれそろ

そのとやせぬ又雨雪一なるひく目すこそれろほろ又一時雨そろろあめれけりまゝ又霰一あめれそろ等ナリ

そろあめれ 天覆 又惘然トモ書用所ニヨルベシ

ろむ 硯 常ニハ峽ノ字ヲ用 ろむ 園生 順倭園圃ノ二字ヲ訓ス

謹言一所以城養禽獸也 又園字附たけのふ竹一 又一房氏法華經云起塔寺及造一房或ハ一房供養衆僧 宗廟 伊勢及石清水

そろむら 僧坊 又一房氏法華經云起塔寺及造一房或ハ一房供養衆僧

ろろむら 總州 作總俗上一 そろむら 添上 又一下大和郡名

それ 噌啞 大隅郡名順倭ニ雜書ハ作僧於 ろろむら 十河 近江ノ所名又人ノ姓

**氣形** ろまをのみこと素盞盞烏尊

鳥或作鳴又とこれを進雄日本紀一  
日ニ又とすを早素盞盞鳴或速

須佐雄氏云又武甕天神氏云天照太神ノ  
弟之古今序ニすこれをのみことト有

そうし

**曾子** 名、參南武城ノ人孔子ノ門弟  
大賢至孝之人也

ろこどりひめ

**衣通姫**

作姫俗又そとどりひめ氏そとどりひめ氏衣通  
郎姫ニ訓ニ言是和歌ノ三神其一ノ即紀伊國弼浦玉

津島ノ神也允恭帝ノ妃ノ容貞勝世艶色  
徹衣故此名アリト云

そむのひめ

**曾波姫**

稻田姫ノ別名也  
そむのひめ 承均法師 紀ノ行 廣カ

二男古今ノ作者上字ソウノ声ナシ  
古来ろうト讀来均ハ垢ト同字

ろひが

**副臥**

妻女ヲ云遊仙ニハ横陳ノ二字ヲ訓ス原ハ桐壺ニ  
そひがのこをいふ也

そくしま

駿 又駢副馬  
ナリ

**生植** ろくづ

**菟蓐**

ぞくずいし

續隨子

**服器**

そでうらそ袖打振 又一延氏云をとりめあり

ろまへ

**饅** 同訓ニ  
贅

ろまへい

増水 又水飯  
ト云

そくいぬ

粘 又續飯氏  
又ノリト訓ス

そかうえん

蘇香圓

ろろうい

繪蓋 僧ノ  
具

ろろい

僧都 カシノ義  
ノ僧位ニ云

そとけ

**卒都婆**

退凡下乗ノ一ノ佛於其鷲山ニ説法ノ時  
山下ニアル下乗山上ニアル退凡ト云本朝ノ

下馬札モ是ヨリ

オコルト云又げニ

雜事

ろくお

ろくお

即位

御宇ノ始之異朝ニハ天子諸侯共ニ云之日本ニハ天子ニカギル

僧綱

法印 法服 法橋謂之ノ一ノ附已講 内供阿闍梨謂之有職 又上座 寺主 都維那謂之三綱ノ附僧

位無位當八位ニ入位當七位ニ住位當六位ニ滿位當五位ニ法印位當四位ニ又大法師當三位已上也ト云大明ノ時始ル

僧録司

禪家有之將軍義滿代康曆二年正月南禪寺住持妙範国師是始之異朝ニ大明時初太祖皇帝御製集出

摠領

作總同俗作 拵家督ヲ云

そらち

宗匠

和歌 等ノ

そらち

蘇民將來 下学集云掛神符於衣袖則縱雖死人蘇生來故云也

聰明

ぶらち

俗姓

ろくお

雙調

作雙作調俗 四月之律

そひえ

從

又從山ノソヒエ 又樛木ノイニ

鹿麕相

又ノ躁氏 作麕俗

そらへ

備

作備同字 又供

そら

奏

作奏俗又ノあて ト訓又舞ノ之

そらふ

汰

音夕 又揃

そら

殘害

作害害共俗 又枝又損

そらひ

添

又副

そら

送別

又そらあへん 送行ト書

そら

唆

そら 氏源氏ニ

そら

訴訟

作懇作謝皆与訴同近世ニ詔字ヲ用フ誤ク 詔ハミコトノリト訓又訟ハウタヘ之又リニ

そら

卒

下作爾同

そら

損亡

作亡俗

そら

卒

そら

損亡

作亡俗

そら

卒

そこね

底意

袖中抄ニ又一井又無底達トモ  
そこねるきふらふらりく山川の

ろむえて

仵

戲義也

ろれく

且

其上

そのむいひとふ終其報

源氏ニ又そのむいひとふ  
負一ツナリ

ろうきるう

崇敬

又一仰  
トモ

そね

所為

訓ニワ

そくむう

息忙

作念忙  
共俗之

ろくく

息々

早々ノ時  
さくく

ろふえ

祖父江

人ノ姓  
ナリ

つ

吉備公及空海師國字ヲ用フ俗門ヲ本字トスルハ誤之但玉篇篇四ハ都豆切ト有シ以  
テツツノ切ト讀テナルニ都ヲ唐音ニ立ラ呉音ニトリアハスヘカラス中華ノ草書國字ヲ  
フノ形ニカケルモアリ但圖變國此片カナツ之變又徒變流變及俗字要解

乾坤つられえ

戊

作戊俗戊ハ音エツ  
訓ヲ附ツキトモ

ついで

隊粟花

俗之入梅  
所ニ委

はきのでいふ 月出沙

月ノ出ル時シホノサスラ云慈圓  
わうれ浦又月のかたれこまを

アトかせ

旋風

又颯又つじ  
クセトモ

アト

十字

順倭ナリ  
附より

はらわたり

九折

文選ニ盤折ノ二字ヲ訓ス白氏  
文集ニハ通岩巔ノ三字皆山道之

ついち

築地

伊物ニついちり又塚障ノ二字ヲついち  
ト訓ス附ついち字塚字城上ノ垣ニ  
ニガキ氏訓ス順倭曰

築牆和名都以加岐  
一云豆以比知

氣形 けくのひごき客作兒

順倭注曰取賃ヲ被雇者之  
今俗ニ云ヒヨウトリ

つひのわざ

番長

近衛舍人中撰用之大臣左右  
大將必召任之云云職原ニ

はくじの

兵 又戎又兵器ト 書テモ同訓

つが

體 作體俗又音 同訓ハクジ

つめれかふ

瓜甲 須倭註曰手 足指上甲也

はきびの

月額 俗ニツクキ ト訓ス又馬

はくひむま

駒 字書注古御字 使馬ナリ

はがひ

旋毛 又ツビト廻毛 共ニ馬ノ毛ニ云

はくひむま

節 作節俗 支体也

はがひ

躑躅花 異名 杜鵑花

生植 つら

萌 草木ニ云 又ハニ

つ

椿桃 椿ノ實ニ 似タレバ云

はくひむま

鴨頭草 月草 凡 月草 凡 月草 凡

はくひむま

苳苳 葉ニ数珠ノ 注ニ似タル

はくひむま

頭巾 須倭曰唐令云諸絡時服 冬則一巾 又此字ハハニ

はくひむま

楮

はくひむま

紙 六韜曰一徹 餅 明小魚食之

はくひむま

豆淋酒 醫方 書ニ

服器 ぼきん

頭巾

須倭曰唐令云諸絡時服 冬則一巾 又此字ハハニ

はくひむま

縵 又縵

はくひむま

纏頭衣 猿樂ノ 服也

はくひむま

杖 又杖

はくひむま

厨子 佛居又ツスト 訓ノ食器ニ用

はくひむま

調餅 香中魚食之

はくひむま

衡重 上字声ニヨク 作衡同 又築重 凡折敷ニ 似タル物ノ俗ニトモ云

はくひむま

杖

又カセツク横首ニ字古書ニ云 凡古今 遍照力詞書ニ云

はくひむま

衡ノ二字上字斗モ又 似タル物ノ俗ニトモ云

はくひむま

衡重

上字声ニヨク 作衡同 又築重 凡折敷ニ 似タル物ノ俗ニトモ云



ついで

堆紅 附紅いさ

はいまひ

續松 松明ノイ

げんむい

飄石 又時石に石ヲ物ニ掛テツブテニ打ナリ南都ノ小童フリツンバイト云

ついでなは

牽絁繩 順倭語曰挽船繩也歌ニつをてト斗モヨメリあまれ小舟乃ほきてかめし

ほがやろお

靱 順倭ニゆふト訓ス注云歩人所帶ト又ウツボトモ訓ス又空靱是ハホンダ

つくえ

机 史記曰持案進食附ぶつくえ書案トモ亦文机トモカク

ほくやう

突棒 俗訓 ついたらまやう 枕草子ニ

つげたをぐ

黄楊小櫛 新古雜ほけれをこーもさすきにげもみ葉ニハ

雑事

つまらぎ 枕式子内親王あま

弾指 とくさるほけのとまら

使

ほまあひせ

拱 爪合

ほくひ

使 又仕附つゝ遣又扇ヲツカフニ操

つゝほえつ

支頤 文選其外ノ書ニモ出タリ

源氏雨夜ニモほくづえほきとトアリ又古今ニ

つらとや

妊病 又悪阻

はいむ心

啄 又啣鳥ロニ食ラトルノ義ナリ又

つらとや

訓クキツ 夕一

つきあらふ

觝 獸以角觸物ニ

ほいむ

春法 田島ノ

ほいむ

誅 日本紀ニモ

つらとや

唾 作漣同つくき

つくろふ

繕 病ヲツクロフニハ

つらとや

つらとや

はらまつる アツル 奉 又事 又仕

等アリ 職原ニ

つこのふ アツム 債 又贖 又償

はを アツル 強 作彊同古今夏歌云云もて此 ひとつかゝるとトよト拘音通

はがふ 番 又雙 同訓

ついで 古書ついで 就 又付 又著

ヨル

はいつら 朔 月立之立秋立夏 ト云カゴトシ

つごふ 湊 源氏ニハ所々又中臣稔ニカミツゴフハ神集 又日本紀ニハ所々會字

はわふ 終 又竟

つえ 支 物ノ差ツカレク 又病ムカハ瘡字 けいたう

はま アツル 謹言 又一白 トモ つごいへ

つし 辻子 人ノ姓上字斗ツツト訓ノ姓トス 又圖司同訓ニ人ノ姓

つくひよ 春米 人ノ姓

● 収 禰変祢変収変ぬ之又年変収変

乾坤 ぬい 婦負 越中郡名須倭ニ出雜書 等ニメフトアリ

づまよ 圖書 唐名祕書省 頭助允屬

はいえ ついで 費 又弊 又耗

つえ ついで 傳

はいせう 追從 附一放

ついで 古書ついで 次 又序又継又一第 ト書テモ但用所ニ

はく ついで 遣

ついで ついで 屬強 馬ノ一ニ云附

ついで ついで 通 又ついで

ついで ついで 追討 同音ニ一悼 用所ニヨル

ついで ついで 椿戸 人ノ姓

ついで ついで

ついで ついで

ついで ついで

ついで ついで

ついで ついで

ついで ついで

**氣形** ぬらげびし 倭人 作倭非なるぬらこのてかゝるぬら

ぬどみ 作鼠非枕草子ニキキニまげみ

**生植** ぬどとち 鼠梓 掘天山之五百箇真坂樹下略

掘 又握木ヲ根コギニスルノ日本紀曰

歌ニいふぬこもててし我宿れ

**服器** ぬひのいし 願系 五色ノ系ヲ掛七夕ニ祭アリ

饒磁 茶椀ノ類

ぬうしら 鏡鉞 佛器ノ鏡与鉞ニ物ノ由

相 頃倭ニ又回事紀ニハ技取ノ字家具ノ

ぬらがひ 宿飼 雁鳥ノ鳥ヲ取タル時野ニテ餅ヲ不飼ニテ家ニ飯テ飼ヲ云又ニゴヒト云一ハ鳥トリタル時褒美心ニ飼ノ長是ヲ増飼トモ増餅トモ云之以上今所ナラ俊ノ

言塵集ニ見タリ

**雜事** ぬらひ 捻挫 附筋ヲ拵 ぬぎふ 又リラクク又

ぬらふ 不分 杜子美句又日本紀ニ又ぬらふ又ぬらむ嫉妬ノ二字

ぬらふき 噍 吾篇又字彙ニ註曰噍兒也又枕草子ニ

ぬらふ 堧 附筋ノハナリ ぬらふ 又樂又耳從ノ二字 睡 又眠

ぬらふ 願 ぬらふハト訓ス

**な** 奈変奈変ナニ又南変カ変ナ

**乾坤** なるる 地震 雷ノ聲ヲ取テ一ノ訓トスライナイ五音相通此訓ハ鴨長明ガ方丈記ニ出タリ

ふみたりさえて浪立碍土佐日記云ふみたりさえて

なまごころ豊後直入郡名

なまごころ

暇頃俵言四聲字苑云田間道之俗繩手

なまごころ在温明殿村上天皇天德四年九月大裏焼失此時神鏡南殿ノ櫻ニカル内侍カ袖請奉ヨリトト云内侍所

なまごころ今大宿直ノ傍ニアリ女樂等ノ師アル所ト云別當アリ大中納言中堪其道之人神芝云又トトト土御門内教坊

なまごころ北堀川ノ西ナリ猶小川

なまごころ

七尾能登名所

なまごころ山城各所又同訓ニ奈良小川大和之但奈良ハ五葉ガキ平城ト書テナラノミマコト訓又鳴尾

なまごころ撰州武庫郡海邊之大坂ニ近シ千載ニ流江

なまごころ伊勢名所續後撰ニいせの海此をのみかきこれりいよ難波

なまごころ撰州名所今大坂之催馬樂呂歌ノ目錄ニかきにハハツ海トアリ先代旧事記ニ云かきにハ誤之浪花ト附江ノ津

なまごころ浦ノレ芦ノ一女等なまごころ

なまごころ我ニ表してハ名もなまごころ

なまごころ丹後名所名所方角ニ云海橋立ト同所ナリ又あつひト訓ノ人ノ姓成相

なまごころ山城名所法金剛院ノ北ニアリト云竝岡

なまごころ無裕姓ヲ云伊物ニ父ハをを人けく母ハん養系ありけく又源氏弟あまモアリ直人

なまごころ尚侍なまごころ

なまごころ腦又作なまごころ

なまごころ子海づなまごころ

鯨生皮ナリ鯨魚ノ名

なまよいを

鮮魚

上字又作魚。字書曰鳥獸新殺示作鮮又訓マザラケシ

なめくら

蚰

又一變凡枕草子いこぎくきこぎさとのちりくら

なむせと

炸蟬

無音ヲ云煩倦注曰雌蟬不能鳴也

生植 なえど

弱葉

茶ニ云 又ナヨタケ凡又苒トモ

なえさけ

籐

字彙註曰弱竹也

なへ

苗

附ルル代又なへぎ一木又なへ早一

なげを

薺

作薺同又靡草凡礼記七十二侯ニ

服器 なと

直衣

又襖衣ノ二字をナトト訓ス煩倦ニ襖衫トアリ束帯色目曰童躰ノ時ハ白浮織物直衣丈小葵裏濃紫

也元服ノ後ハ白シラ綾文浮線綾丸裏平絹漆色之隨年齢若年ノ時ハ紫次薄色或ハ半色次浅黄有浅深老者用之無志々羅白綾或ハ平絹裏ハ何モ平絹白之童ノ時又同之夏穀丈ニ重ダスキ色又隨年齢紫薄色浅黄老者皆張平絹或ハ著用無文薄物鳥帽子直衣ハ大納言以上參院ノ時著之但可蒙勅免於私者依便宜用之無子細浅色著鳥帽子直衣事大井川道遠之時藏人頭著鳥帽子直衣其外無例ト

なごり

鹹鼓

本州ニ俗ニ云納豆

なんねう

南鐮

白銀美著く亦雅ニ

ないがは

薙鎌

雑事 なづ

撫 又摩

ないて

鳴

又啼又泣又哭附なきまわり泣音

なん

繩

附ををのみ索 絢又たけの糸

なぐえ

轆

又輓 車具

なふら

直禮

神供ヲ云 但倭語

椒

山胡椒ノ類

あんぢ

汝

又爾古訓ナニダチ  
日本紀ニイニト訓ス

なほつゝ

歷易

病ノ名  
又癩風

なえつゝ

弱

詞ノナユルナリ又手足ノナユルニ痿字礼記ニ跛字ヲ  
アチエト訓ス又趁跛ノ字ヲアチエトヨム又蹇字同訓

なまぢい

媚

又最媿凡伊物ニイヒコト  
ウイコトをんをトアリ

なつさひ

昵近

上作暱同音ナツ作昵非ナドト訓又親昵同訓古方ニ吉也  
川の原ナリト云又源氏ヲ類ナリト云フツツナリケン

なやらふ

追儼

註を  
委

なぐなふ

啼度

ひつし  
あきつ

なと

等

等

なつさひ

懷

作懷  
略

なぬどぬ

慙

作慙  
俗

なぞざり

等閑

なと

直

すかかノ時ハ  
ほ

ながく

長久

又長生  
トモ

ないぐる

夢如

上一字ニモ上  
又作蔑同

なとく

猶々

又尚々

なまじ

慣

ハミ  
云一等

なまじ

習

作習誤  
又効

なまじ

準

作准同又擬をぞらふ又なまじ無ク古歌ニ山振の  
こまじくナリト云ハるをぞらトヨメハ心カハ是ハ平等心ト云

なるう

温

作温俗圭角ノ  
ナキヲ云ク

なつむ

泥

古訓ノイブカニ  
あせむナラシカ

なにかせん

耳從

スムナト云マ源氏巴注ニ煩字ヲ  
ナツムトヨメリ用所ノ簡アルベシ

なご

詰

問ナリ

なんぢ

難澀

作澀  
俗

なんぢ

萬事

なや

奈保留

延喜式忌詞外七言ノ  
内ナリ死ヲ云

なや

萬事

なや

奈保留

延喜式忌詞外七言ノ  
内ナリ死ヲ云

あまのりい

農

千字文及宅詩ニ方葉ニ檢字  
日本紀ニ耕種業ノ三字又播

なまふく

喃々

声ナシ人ヲ呼ク  
雑書ナリ未詳

なまふくもむ借遺

なまふく

何條

枕草子ニまふくことあらん伊物ニまふくことまふく此  
ゆふと有人ヲアチトリタル詞由愚見抄ニカロル詞ナリト

省聞ニ何ガリヌモ  
アラスト云心トゾ

なまふく

内々

無假名使俗ニ  
なまふく或ハナシ

くト書尤非之都テ  
声ノ字ニ端ハシ用

なまふく

名負

古今及後撰  
等ノ名歌ナリ

リ又名ニ應ニタルト云  
時ハまふくノカハク

なまふく

半井

今ノ姓中洗ノ時  
なまふく

なまは

那波

人ノ姓又名和  
時マシク

なまは

内吳

又奈吳  
同訓

なまこえ

名越

人ノ姓

ら

良変良変ラリ変  
ラ又羅変ラ

乾坤 らららららら羅羅星

九曜星其一ノ常  
ラゴシマワト云

らくやう

洛陽

王城ノ或一邑  
或ハ洛陽ト云

ららいち

蝟地

餘地ナリ  
無假名使

らんたふ

卵塔

異名土  
饅頭

らうか

廊下

下学集ニハ  
作ハ架ニ上

訓ホソドノ又声ニラ  
トハカリモ用附廻

らうろう

牢籠

和訓ナリ  
獄屋ヲ云

東鑑ニモ出タリ附ラシマラ牢者ハ入獄ノ者ヲ  
云然ルニ俗籠舍トカクハ非之雜書等ヲ用ルニマ

ららし

老子

名ハ周ノ時ノ道者嘗ク爲柱下史有書  
行ニ千世曰一經ト又曰青牛書ト

らうじん

浪人

訓ウカレビト未社士也俗牢人トカクハ非之牢人トカクハ  
誤ク浪人ノ字東鑑ハニモ出タリ其外ノ書ニモ

列四

林二

らうきう

老翁

又此二字なき  
をト訓ス

らうきう

郎從

作即俗之  
附らうきう

一等又本  
ニ

服器 らせり

羅勢陀

出所未詳  
附らうきう

らねたき

羅綾袂

らうきい

朗詠

書ノ名四条大納言公任卿編  
又詩歌ヲ誦シノスト云

らうし

禮紙

書狀及掛物ホニ  
云無假名使

らんれら

蘭漿

桂權分ノ  
楚詞ニ

らうきう

糧料

上字与糧  
同玉篇ニ

らふそく

蠟燭

上字作蠟同  
訓ニツカス

蜜滓ノ作蠟俗ノ字彙註曰蜂液融者爲蜜凝者爲蠟ト云云附ラウキウ  
らう錫鑑ハカ子ヲツクルモノナリ

らうのり

螺鈿軸

青貝ノ  
類ノ

らないう

羅面絃

未詳世ニ  
キウト云

小ヲハリーラヒク物ノ  
但コトヲ鼓ヲト書キ  
爲珊瑚ト云云  
多識ニ

らうかん

琅玕

凡生於山爲  
一ト生於海

雜事

らんきやう 濫觴

始義ノ一ハ泝江始出於泝山其源少水以  
濫觴及干楚國滄波万頃也

らうせき

狼籍

訓ニタリガハレ又日本紀ニサハグト訓ス  
文集ニ浪迹ト書テミタリガハレトヨメリ

らいかう

來迎

作迎俗佛  
者之詞

らうさい

癆瘵

病ノ  
名

らんぼう

濫妨

らうがう

濫敷

又乱ノ共源  
氏夕顔ノ卷ニ

らうかき  
大御ニト有

らうきう

老耄

らうきう

勞



武変む変む  
又无変ん

乾坤 むまつぎ

驛 附むまぢり路  
又むまぢり水

廐 廐本字  
馬屋之附むまぢり  
のむまぢり長

むまぢり

馬場殿

拾芥云豊樂院之註ニ八省西天子宴會所謂之  
トアリ源氏巴抄卷ニ賀茂ノ競馬ヲ畧  
覽ノ所トアリ文字亦馬場乙殿之ハ次ト云心トソ  
伊物岡疑ニハトアリ

むめつが

梅壺

大内ニ  
アリ

むまさ

牧

甲斐陸奥ノ  
信濃ノ等ノ

むらう

兔原

根羽郡名  
附一ノ瀑

むらうき

茨城

常陸  
郡名

むらうひやま

馬食山

在甲斐國其所ヲ多クヌルニ不分明大名寄ホニモ不見  
万葉ニハむまぢり山をこくねバトアリ

むらうのとう

向岳

武藏名所名所方角ヲ見ニ玉川ニ近キカ  
新勅ニむらう此ハむらうのとう乃まぢりハ

葉形

むら

むら

祖母

順倭ニハむら  
トアリ又ホニ

むまご

孫

常ニ上略シテ  
まごト云

むらうこくし

夢窓心國師

康永四年點龜山殿之跡ヲ而作嵯峨天竜寺  
源ノ尊氏卿ノ皈依僧也太平記ニ委

むまぢりいし

馬内侍

右馬權頭時明カ女ニ条皇后宮ノ  
女房後歌仙ノ内ナリ

むまぢりい

徒御

附むまぢり  
儼人順倭ニ

むまかひ

圀人

順倭又日本  
紀ニ馬子ニ云

むらうい

當腹

後妻ノ  
子ヲ云

むらうい

齒齲

順倭ニ齲齒  
ト書テハ

かちト訓ス本丈ト  
同然又蝕牙ノ字

むま

馬

籀丈ニ作影古丈ハ  
作影又ハ胡馬

是ヲこまハ訓ス  
少キ口傳アリ

附録馬毛色

かげ駟。かげろ。おろ粉紫駟  
こまぢりけ駟。おろかり駟

かげろけ駟油馬。ほけろけいけり班駟。あを駟。らあを  
駟。おろあを駟。あをら駟。あをらけ駟油馬。おけ駟。

あつあつげ白駒。ホムホムあげ黄駒。ころあげ馬。ゆんげあま  
げ驢又班駟。ころげ駒又紫駟。ころあげかどげ駒油馬。ひんげ  
驢。あまひんげ驢。あまひんげ駒。かげひんげ駒驢又驢。あま  
げひんげ駒驢。つきげ駒。ころあいつきげ赭黄馬。さひつきげ宿駟  
。ころころつきげ駟。たきげひんげ驢。つきげかどげ駟油馬。かろ  
げ駟。かろあげ駟驢。あまかろあげ白駟。きかろあげ黄駟。あま  
だかろあげ班駟。かろころあげ駟油馬。あまあげ驢。あまあげひんげ  
赤駒。かどあげ駟。あまかどあげ赤駟。あまかどあげ白駟。あま  
げかどあげ驢油馬。すこのころ駟。ころあいつき駒。ころかどげ黒油  
馬。ころかろあげ沙駟。ひんげかど駒。ころあいつき駒魚。かろ  
けろ駟魚。あまかどあげかろ白駟魚。つきげかど駟魚。ころあいつき駒  
。かろあげ油馬。ころ駟馬。つろかど駟駟等。是は林道春所考也

絡 又作納同 又訓タキ

疊鼠是ハ鳥ナリ 多識ニ見タリ

むさびい

鼯鼠 異訓モミ 倭又むさびい

むしこい

加鳥 此鳥大ト小アリ 未見本抄

ひんぎ

鰻鱺 順倭ノ訓ハ文字本抄ニモ有今世ニウミギト云フトハ  
拘音ニ通テ之俗ニ泥鰻ト書又下字ニハゴカウヲ訓ス誤之

むしこい

蝕 日月ニモ云

むしぐえ

梅枝 上字作棊同又催馬樂ノ謡物又古今物ノ名ニ  
あまうめ然ハうめニアルベシ古書ニモうめアリ

むしぐえ

藥 順倭ニ俗ニ云ムクラワジ

むしれぎ

埋木

むしぐえ

荊 又棘又茨棘ニ伊物ニむしぐえ  
わくわくにわくわくとアリ

むまごや志

苜蓿

服器

ひんぎ

村濃

衣裳ノ色ノ紺紫紅 其外ノ添色ニモ云

むしぐえ

平絹直衣

源 びぎこい

索麩

作麩俗 又さこ

むらぼり

白梅 乾梅子ナリ

むらやうぬ

無明異 石薬

むくらんぢ

木蘭地 直垂

むまきぬ

馬被附むま

くハ一杷

頰倭ニ云田ヲ作具又云鉄齒杷ノ名也

むらんぬあぶぎ無文扇

喪ノ時用之ヲ表裏花田色但不盈文又尋常黒骨扇モ吉事ニ不用之由束帶色月ニ

むまぶひ

槽 此字ノ上ニ馬字アルニシカブ子ノ時酒一也字彙ノ註ヲ見ベシ

むまぶい

鞅 頰倭ニ當旬月毛詩ニ鞅字古訓むまぶいトキトハ相通テ一ノ訓母面月懸ナリ

むまぶぬ

柳 音カウヲ玉竹編注ニ敷系馬柱トアリ

むまぶふ

奪 うむひトモ

むまぶる

群居 スーハハむらぶる

むまぶつき

生得 源氏明石巻ニモ出タリ又直示性トモ又所ニヨリウマれつきトモ子ヲウムト云時ムトハ云伊物詞書ニ後一条院ウマれ

コセタウアケル

ひま

美 作羨俗又音又甘トモ

むらぶ

夢想 又一連歌

むまぶつき

松 又悻又怔忡トモ十字文ニ心動附

宵ノ升分ヲ宵走ト云古今ニむまぶる

むまぶゆ

騎射 五月五日ハ左近府ノ一六月ハ右近府ノ一又いノ字委

無常

涅槃經ニ諸行無常

むまぶい

睦 常ニムフニシ又ムフト訓ス又和順ト

むまぶる

書テモ

むまぶる

蠢 虫ノムクネクニモ

同訓

むまぶる

暮月

ニモ見

タリ

むろー 六十歳

世ニ大概下略ニテ六十ト斗書古書ニむろー用隆信朝臣あつたむろー此秋ハすきにけり

むまねるむひ 騎餞別

歌ノ詞 書ホニ

むむこむ

無手組

戰場ナリ

むかあ

婚姻

古語拾遺ノ訓ナリ 俗ニムカハサルト云ク

むばる

烏羽玉

万葉ニハ黒玉ノ二字ヲ訓ヌ夜ノ枕詞ニ都陰ナルヲ云カむろー此よりト云むろーぬれろろトヨメリ或説ニ髪ハムバタニ夜ハヌバタト云ト然レ雨義ニ又天徳ノ歌合ニむろーぬれ夜ノ爰たます止事御歌令御判ナトトカク云カタレトゾ

むろ

報

又醜涼氏ニむろトアリ

むえ

迎

作迎 俗

むか

向

迎向ハ往来ノ差別ノ假名遣

共ニ 通ス

むいぢん

對陣

向ナリ

むとがゆれ

結

作結俗又鬱字古書ニむとがゆれ又むとゆれ越前カ歌ニたえぬむとがゆれ

むゆ

六月

無假名使俗ニムイカ或ハコノカ九月俗ヨニスカ或ハナヌカ七月ヲ俗ニナカ如此書時ハカナノ誤

むさう

武藤

人ノ姓

むい

向井

同上

むいど

峯岡

同上

倭字古今通例全書卷四終

伊四

伊四

伊四

伊四

伊四

伊四

伊四

伊四

伊四

六月  
無期  
伊四

